

S3-2

日本大学災害研究ソサイエティの現状と課題
Current Status and Issues of Nihon University Disaster Research Society

○長瀬浩明¹
Hiroaki Nagase¹

Nihon University Disaster Research Society (NUDS) was launched in July 2021, following the first joint meeting of the "Study Group on Personal Alerts," which brought together 12 faculty members from three faculties and eight departments. With support from Nihon University's Special Research Program, NUDS has since grown rapidly, now involving 62 faculty members from 15 faculties. Under the common theme of "disaster prevention and mitigation," researchers from such a diverse range of faculties have come together to actively engage in a wide range of activities, including the development of the Personal Alert System (PAD), support for reconstruction efforts following the Noto Peninsula earthquake, information sharing through regular meetings, and efforts to secure external funding. This article provides an overview of NUDS' current activities and discusses its future prospects.

2021年7月、3学部8学科12名の本学教員による「パーソナルアラートに関する研究会」第1回合同会議を皮切りに、『日本大学災害研究ソサイエティ（以下、NUDSと略す）』が発足した。そして2022年から2カ年、続いて2024年から2カ年と、NUDSは日本大学特別研究の助成を受けて研究を本格化するとともに、その後15学部62名の教員が参画するまでに至った。「防災・減災」という共通テーマのもと、これほど多様な学部の研究者が結集し、パーソナルアラートシステム（通称PAD）の開発をはじめ、能登半島地震の復興支援、定例会議を通じた情報共有、さらには外部資金獲得に向けた取り組みなど、幅広い活動を精力的に展開している。本稿では、NUDSの現在の活動状況を概観し、今後の展望について述べる。

1. NUDSの現在の概況について

NUDSの構成メンバーの内訳は、表1に示すとおりである。これに外部のアソシエイトメンバー、ライフメンバーを加え、現時点で総勢62名のメンバーで構成されている。それぞれが自身の専門分野・領域に軸足を置き、災害研究と向き合っている。

NUDSでは、当初から図1に示すとおり災害の発生を想定したタイムラインに応じて取り組むべき研究内容

表1 NUDSメンバー構成（2025年10月1日現在）

学部	人数	学部	人数
法学部	3	理工学部	19
文理学部	2	生産工学部	1
経済学部	1	工学部	2
商学部	3	医学部	7
芸術学部	5	歯学部	1
国際関係学部	1	松戸歯学部	1
危機管理学部	8	生物資源科学部	2
スポーツ科学部	1		

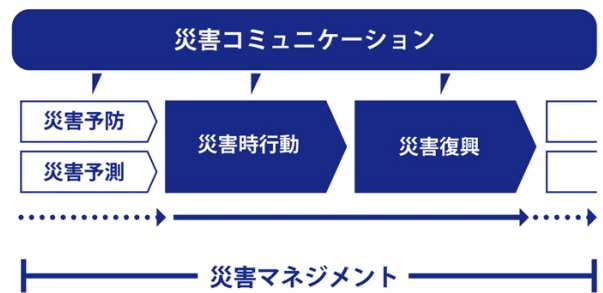


図1 災害タイムラインに応じた研究内容

を位置付けており、参加メンバーがそれぞれの専門性を活かし研究を分担するような枠組みとなっている^[1]。

2. 未来に向けた取り組み

別稿で理工学部の関弘翔先生からのご発表のとおり、今年度は45歳以下の若手研究者を中心とした外部資金獲得のための新たな挑戦がスタートした。これを機にそれぞれの学部からより多くの若手研究者が参画されることを期待したい。

地震は全国規模で頻発している。また台風をはじめ、線状降水帯の発生による集中豪雨災害など、異常気象と言われて久しいが、もはや異常ではなく日常化してきていることに危機感を覚える。待たなしに襲来する災害に備え、日々の研究に邁進する覚悟とともに、NUDSを軸とした『防災・減災に強い日本大学』の環境整備とブランドイメージの構築に努めて参りたい。

参考文献

[1] 日本大学災害研究ソサイエティホームページ：
<https://www.runit.cst.nihon-u.ac.jp/nuds/>

1:日大芸術・教員・デザイン